

決意表明

皆さんは、和歌山の良さと聞いて何を思い浮かべますか。おそらく多くの人が、「豊かな自然」と答えるのではないのでしょうか。では、その自然の価値を本当に感じたことはあるのでしょうか。私はあります。

人と比べて落ち込んだとき。

勉強や部活動に追われて疲れたとき。

自然の中に身を置くと、不思議と心が軽くなり、前を向くことができました。

その経験から私は、自然には人の心を支える力があるのではないかと考えるようになりました。しかし、その価値は現状十分に活かされているのでしょうか。

和歌山では自然を「豊かなもの」として語ることはあっても、人の学びや心を支える「資源」として考える機会は多くありません。

私は、和歌山の自然は「あるもの」として認識されていても、「活かされるもの」としてはまだ十分に見つめられていないのではないかと考えています。

そこで私は今回、ニュージーランドへ留学し、

「ウェルビーイングにおける緑の空間設計が学習効率や自己肯定感にどのような影響を与えるのか」というテーマで探究活動を行います。

日々学習に励む中で、知識や技術を身につけることの大切さを感じています。

一方で、これからの時代はAIの発展によって、多くの答えを簡単に得られる時代になるとも言われています。だからこそ私は、これから本当に大切になるのは「答えを知ること」ではなく、つまり「問いを持つこと」だと考えています。

AIは答えを出すことができます。

しかし、

「なぜ自然の中にいると心が落ち着くのだろう」

「緑の空間は学びにどんな影響を与えるのだろう」

という問いは、人が日々の経験の中で感じた違和感や感動から生まれるものです。

探究活動とは、自分だけの問いを見つけ、その答えを探し続ける学びだと思います。

今回の留学では、ニュージーランドの学校や地域を実際に訪れ、多くの人との対話を通して、この問いを深めていきたいと考えています。

そして帰国後は、和歌山の自然が持つ価値を新たな視点で捉え直し、地域や学校に還元していきたいと思っています。

最後になりますが、私たちトビタテ生は、それぞれが自分自身の問いを持ち、その答えを求めて世界へ飛び立ちます。

AIが答えを生み出す時代だからこそ、私たちは問いを生み出し続ける人でありたいと思います。

今回頂いた貴重な機会への感謝を忘れず、多くの学びを持ち帰ることができるよう精一杯挑戦してきます。引き続き応援よろしくお願いします。

和歌山県立向陽高等学校

裕本 真里那